

## 産衛だより

### 平成 20 年度第 3 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 12 月 20 日（土）13：00～17：00

場 所：日本公衆衛生協会ビル 3 階会議室

出席者：清水英佑（理事長）、相澤好治（副理事長）、植本寿満枝、圓藤吟史、大久保靖司、大前和幸、岡田 章、荻野景規、加地正伸、岸 玲子、清田典宏、車谷典男、河野啓子、小林章雄、齊藤政彦、實成文彦、諏訪園靖、高橋英尚、土肥誠太郎、昇淳一郎、東 敏昭、広瀬俊雄、藤田雄三、芳原達也、堀江正知、吉田 勉（以上理事）、大本美彌子、佐藤章夫（監事）  
欠席者：日下幸則、角田 透、福光ミチ子、本橋 豊  
理事 26 名（委任状あり日下幸則、角田 透、福光ミチ子、本橋 豊）が出席しているので、定款第 25 条により理事会が成立していることを確認した。

清水理事長の挨拶の後、大前総務担当理事の進行役で会議が進められた。

議事録署名人に小林章雄、齊藤政彦の両理事が指名された。

#### [審議事項]

1. 前回平成 20 年度第 2 回理事会議事録は了承された。
2. 平成 21 年度予算案について：圓藤理事より石綿問題検討委員会（非常設）は今年度で終了となることが確認された。管理費等についてホームページ管理費を 120 万円とし、ホームページ改良予備費を 280 万円に変更した。今年度予算で各地方会へ、選挙費用の援助として一人当たり 200 円を補助することとした。
3. 表彰制度受賞者の推薦について：学会賞は応募者なし、奨励賞は東委員長より 5 名の推薦があり細則に則り検討した結果、大神 明氏・上島通浩氏・五十嵐千代氏の 3 名が推薦され、了承された。功労賞は河野委員長より 2 名の推薦があり細則に則り検討した結果、菊池誠作氏・鈴木秀吉氏が推薦され、了承された。名誉会員選考は芳原委員長より 3 名の推薦があり細則に則り検討した結果、斎藤和雄氏・角田文男氏・原一郎氏が推薦され、了承され、いずれも総会に提案することとした。
4. 次回理事会開催日について：次回は平成 21 年 3 月 14 日（土）に新旧合同理事会として開催の予定。
5. その他
  - ①代議員選挙について：大久保選挙管理委員長より代議員が決定したので 11 月 1 日付けで委嘱状を送付するとの報告があった。なお、新代議員の活動開始時期に関しては、選挙規程に記載がないため、中央選挙管理委員会で検討してもらうこととした。
  - ②平成 22 年の全国協議会について：岡田理事より北海道地方会での開催が提案され、了承された。
  - ③4 部会フォーラムの講師の経費について：岡田理事より現行では部会から支出しているが、総会企画運営委員会から

支出してほしいとの提案があった。部会フォーラムは企画運営委員会が一切関与せず部会が独自で企画運営しており、現行通りの経費負担とすることとした。

#### [報告事項]

1. 第 81 回日本産業衛生学会について：岸理事より創立 80 周年記念として第 81 回学会のシンポジウムの内容を中心に採録し、出版を第 81 回学会費用で発行するとの報告があった。
2. 第 18 回産業医・産業看護全国協議会について：昇理事より 770 名の参加があったとの報告があった。
3. 第 83 回日本産業衛生学会について：高橋理事より平成 22 年 5 月 25 日から 29 日までの開催期間とする。なお、学会企画のアンケートのお願いと企画運営委員会組織構成案が配られた。
4. ACOH について：東理事より副会長に日下幸則氏がなったとの報告があった。
5. 産業医部会報告について：岡田理事より四国で初めて全国協議会が行われたこと、産業衛生学雑誌 11 月号に新型インフルエンザ対策を載せたこと、部会アンケートを行った結果をまとめたものを掲載する予定の報告があった。
6. 産業看護部会報告について：河野理事より産業看護師が 1,311 人であることの報告があった。
7. 産業衛生技術部会報告について：堀江理事より第 17 回研修会が東京で行われたとの報告があった。
8. 産業歯科保健部会報告について：藤田理事より平成 21 年 2 月に関東地方会部会を準備しているとの報告があった。
9. 専門医制度委員会報告について：東理事より登録者数（指導医 255 人、専門医 145 人、研修登録医 410 人）の報告と、専門医試験を奨励してほしいと要望があった。
10. 編集委員会報告について：大前編集委員会担当理事より JOH のホームページアクセス数が増えていること、投稿規程が変わることの報告があった。
11. ワーキンググループ報告について：岡田理事より 10 月 12 日、11 月 3 日、12 月 20 日に会議を行い関係者にもヒアリングを行い、次回理事会で報告書を提出する予定であるとの報告があった。
12. 会員の状況について：大前総務担当理事より 7,604 人（12 月 11 日現在）との報告があった。
13. 協賛・後援等について：大前総務担当理事より＜第 16 回日本精神障害者リハビリテーション学会・後援＞＜第 31 回人間－生活環境系シンポジウム・協賛＞＜第 27 回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会・協賛＞＜アジアにおける塵肺胸部写真読影訓練コース・後援＞をしたとの報告があった。
14. その他
  - ①中央選挙について：大久保委員長より各地方会理事候補者が決定し、理事長・監事の選挙が始まり、電子投票も行うので、代議員はメールを登録してほしいとの要望があった。
  - ②生涯教育委員会について：車谷理事より良好実践事例の教材を閲覧しており事例を 100 例集める予定で投稿をお願いしているところであるとの報告があった。

- ③第 82 回日本産業衛生学会について：堀江理事より今回から参加者には講演集を配布しないので、事前配布 CD から必要な部分を印刷して持参してほしいこと、特別研修会に実地研修も入れて行うとの報告があった。また、講演集を紙媒体で出すことについて混乱がないよう総会企画運営委員会で再度検討していただくこととした。
- JOH および産衛誌はインターネットで見られるが、学会抄録集も可能か理事会で検討してほしいとの要望が出された。

## 編集委員会事業報告

2009 年 1 月

産業衛生学雑誌編集委員長 川上 憲人

1. 新編集委員会（2008-2010 年度）は、2008 年 4 月から編集委員長、副編集委員長 7 名を含む編集委員 40 名体制で発足した。
2. 編集委員会は、編集委員全員による委員会を 4 回、委員長・副委員長による小委員会（E-mail 利用による委員会）を月 2 回、合計 24 回開催し、編集方針、投稿論文等について審議した。
3. 産業衛生学雑誌（産衛誌）50 巻 1 号～6 号の刊行はほぼ順調であった。掲載内容は、総説 1 編、原著 2 編、短報 2 編、事例 2 編、調査報告 9 編、話題 1 編の計 17 編（前年 22 編）および、許容濃度の勧告、許容濃度の提案理由、研究会からの資料、地方会・研究会記録等であった。
4. 2008 年 1 月～12 月末までの産衛誌への投稿数は、総説 3 編、原著 8 編、短報 4 編、事例 0、調査報告 6 編、話題 4 編、研究会からの資料 1 編の合計 26 編（前年 27 編）、この期間における掲載不可、取り下げ、期限切れの論文数は 14 編であった。
5. Journal of Occupational Health (JOH) Vol. 50, No. 1～6 の刊行は、ほぼ順調であった。掲載内容は、Review 1 編、Original 42 編、Short Communication 10 編、Case Study 3 編、Field Study 10 編、Occup H/S World 1 編、Rapid Communication 2 編の計 69 編（前年 71 編）および、許容濃度の勧告であった。第一著者の国別では、国内 32 編、国外 37 編（中国 9、韓国 6、台湾 5、タイ 3、イタリア・トルコ各 2、イギリス・インド・スウェーデン・スペイン・セルビア・ノルウェー・ネパール・フィンランド・フランス・ブラジル各 1）であった。
6. 2008 年 1 月～12 月末までの JOH への投稿数は、Review 9 編、Original 175 編、Short Communication 17 編、Case Study 9 編、Field Study 33 編、Occup H/S World 5 編、Rapid Communication 1 編、Opinion 0 編、Book Review 0 編の合計 249 編（前年 217 編）、この期間における掲載不可、期限切れ、および取り下げの件数は 183 編（前年 133 編）であった。
7. JOH の投稿規定を 2008 年 11 月から修正した。抄録を structured abstract に、文献引用をバンクーバースタイル (Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals) に準拠、論文のワード数を制限したことが主要な修正点である。
8. 論文等の掲載方法について変更した。論文等の種別による掲載順を変更した。産衛誌における「地方会・研究会記録」には、希望があれば一般演題の抄録（400 字）に加えて、特別講演・シンポジウムの講演要旨も掲載することとした。
9. 第 1 回日本医学会雑誌編集者会議（2008 年 8 月 1 日）に井上副編集委員長が出席した。
10. 第 18 回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会（愛媛）期間中の 2008 年 11 月 28 日（金）12：30～13：30 に「編集委員長と話そう：産業衛生学雑誌・JOH が求める論文とは、そして雑誌の将来像とは」を開催。約 20 名の学会員の参加があり、意見交換が行われた。
11. 学術振興会から JOH に対して 2008 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）600 万円の助成を受けた。

## 第 117 回労働衛生関連法制度検討委員会議事録

日 時：2008 年 11 月 20 日 午後 6 時～8 時

場 所：島嶼会館（東京都港区海岸）

出席者：岸 玲子、甲田茂樹、平田 衛、堀江正知、宮上浩史、矢野栄二（五十音順、敬称略）

### 1. 当委員会が理事会に提案した「安全衛生規則に関する要望書」を巡る問題

2007 年 4 月に公表された安衛則改正案に関して同年 7 月に本学会が提出した要望書の取りまとめ過程に生じた理事会の問題について、2008 年 6 月 24 日の総会で行われた議論を受けて、理事会は 9 月 3 日の会議で仮称「あり方」ワーキンググループ (WG) を作り、堀江委員がオブザーバーとなったことが、担当理事の堀江・岸委員から報告された。今後、同 WG では、事実関係の確認を行い、その上で会員へ報告し、本学会と他の学会や行政との関係及び本学会としての意見や要望の取りまとめ方などについてのあり方が検討される予定であり、現在は事実関係の確認が進行中と報告された。学問研究やその反映である学会活動は行政から独立しておかねば国民への責務を果たし得ないなどの視点から WG の検討の推移を見守ることとなった。

関連して、これからの厚労省関係・研究会や検討会の審議内容とその動向について日本産業衛生学会労働衛生関連法制度委員会としては継続的な観察が必要なことが話された。

### 2. 当委員会が理事会に提出した「中小企業に関する提案」の理事会における検討状況

当委員会担当理事には、理事長等が述べていた意見等が明確な形で伝わっていないために総務担当理事に問い合わせることとなった。

### 3. 非正規労働者の労働衛生に関する WG

理事会で研究会としての発足が認められて WG の活動が研究会（9 月 27 日発足）に移行したため、当委員会は研究会の研究

成果を待ちつつ、法制度上の課題については適宜共同して対応することとして、委員会として検討を一旦終息させることとなった。なお、詳細については、担当の矢野委員が学会総会の法制度委員会の検討報告会等で経緯を説明することとなった。

## 産業看護部会報告

特定保健指導における日本産業衛生学会登録産業看護師を有する看護師の活用について

2009年1月

産業看護部会 部会長 河野 啓子

日本産業衛生学会の産業看護基礎コースを修了した同学会登録産業看護師登録の看護師は、保健指導のための一定の研修を修了し、日本産業衛生学会でその資質を担保していますので、高齢者の医療の確保に関する法律第18条第1項において、特定保健指導を実施する人材として示されている「保健指導に関する専門的知識及び技術を有する者」として活用できるものと考えます。

### 記

1. 産業看護の実務経験2年以上を有し、衛生管理者の資格を取得している看護師が、短縮Nコース講義28時間、課題レポート4題を修了した上で、講義50時間、研究30時間の産業看護基礎コースを修了したとき、産業看護師として登録することができる（資料1）。
2. 産業看護師登録後も産業看護実力アップコースを受講し、単位認定を受け研鑽を積んでいる（資料2）。
3. 中央労働災害防止協会は、同協会が実施する産業保健指導者専門研修向上コースにおいて産業看護基礎コースを修了した者は、産業保健指導向上コースを修了したものとみなしている。

（\*この報告は、日本産業衛生学会「部会に関する細則第8条第3項」による。）

（資料1）

## 産業看護職継続教育システム

日本産業衛生学会産業看護部会  
2009年1月1日

1992年3月の日本産業衛生学会産業看護部会発足時より3年余の歳月をかけて取り組んできた継続教育システムが、1995年9月2日理事会での審議を経て、10月23日産業看護部会総会で承認された。以下その概要について紹介する。

### 1. 目的

本システムは、産業看護の定義に示されている産業看護職の役割を果たすことができるように、その知識と技術を得ることを目的とした。産業看護の定義は1991年10月に日本産業衛生学会産業看護研究会により示され、2005年4月に日本産業衛生学会産業看護部会が、「産業看護とは、事業者が労働者と協力して、産業保健の目的を自主的に達成できるように、事業者・労働者の双方に対して、看護の理念に基づいて組織的に行う個人・集団・組織への健康支援活動である」と改訂した。

### 2. 基本的な考え方

- 1) 産業看護職の専門性を高め、レベルアップをはかるための必要教科目を網羅したカリキュラムとする。
- 2) 産業看護の基礎的理解を深め、実務を展開できることをねらいとする基礎コースと、専門性を高めレベルアップを図るための実力アップコース、定期的な再教育のための向上教育コースを積み上げていく（図1参照）。

### 3. 産業看護職継続教育カリキュラム

カリキュラムを構築するに当たっては、教育の基本ラインを保健師教育修了者相当とし、以下の5本の柱ごとに具体的な教科目を設定した（表1）。

- I. 産業看護論
- II. 対象の理解
- III. 産業看護をすすめる上での知識
- IV. 産業看護職の職務
- V. 産業看護技術

総時間数は講義270時間、研究60時間とした。

- 1) 「産業看護基礎コース」：受講資格は産業看護の実務経験2年以上とする。  
講義50時間、研究30時間
- 2) 「産業看護実力アップコース」：受講資格は基礎コース修了者とする。

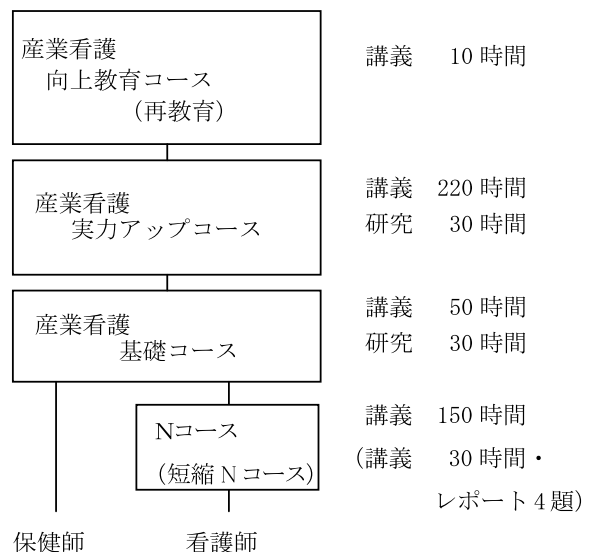


図1 産業看護職継続教育システム

講義 220 時間, 研究 30 時間

- 3) 「産業看護向上教育コース」: 受講資格は実力アップコース修了者を対象とし, 5年ごとの受講とする.

講義 10 時間

4. 運用について

- 1) 看護師が基礎コースを受講するためには, N コースを修了することが必要である.
- 2) 看護師で衛生管理者の有資格者は, 別に定める短縮 N コース (講義 30 時間, 課題レポート 4 題) を修了することにより N コース (講義 150 時間) を修了したものとす.
- 3) 衛生管理者の資格を有する看護師で, 日本産業衛生学会産業看護部会が認めた教育を受けた者は, N コースを修了したものとみなす.
- 4) 日本産業衛生学会産業看護部会が認めた教育を受けた者は, 基礎コースを修了したものとみなす.

表 1 産業看護職継続教育カリキュラム

講義 5 項目 24 教科目 (1 時間は 45 分とする)  
(※の欄は基礎コースで履修する時間)

項目・教科目	時間	※
I. 産業看護論	15	2
1. 産業看護概論-1 産業保健活動の理念と健康管理体制	(10)	
2. 産業看護概論-2 わが国に於ける労働衛生の実態	(5)	
II. 対象の理解	30	4
1. 産業社会	(6)	
2. 産業組織	(6)	
3. 産業経済	(5)	
4. 労働	(6)	
5. 労働者	(7)	
III. 産業看護をすすめる上での知識	47	12
1. 職業・作業関連健康影響	(18)	
2. 人間工学	(7)	
3. 労働生理学	(6)	
4. 労働衛生工学	(2)	
5. 安全工学	(2)	
6. リスクマネジメント	(4)	
7. 労働衛生関連法規	(8)	
IV. 産業看護職の職務・役割	90	24
1. 総括管理	(20)	
2. 労働衛生教育	(14)	
3. 健康管理	(20)	
4. 作業環境管理	(18)	
5. 作業管理	(18)	
V. 産業看護技術	88	8
1. 産業看護専門職としての文章の書き方	(15)	
2. ケースワーク	(15)	
3. グループワーク	(15)	
4. コミュニケーション技術	(10)	
5. 保健面接技術	(15)	
6. コーディネーション技術	(8)	
7. 情報管理技術	(10)	
講義時間 合計	270	50
産業看護研究	60	30

産業看護基礎コースカリキュラムは表 2, N コースカリキュラムは表 3, 短縮 N コースカリキュラムは表 4 を参照.

表 2 産業看護基礎コースのカリキュラム

※前期, 後期各 3 日間 計 6 日間, ※各教科目 90 分 (2 時間) とする. ※この他に産業看護研究 30 時間

項目	教科目
I. 産業看護論	1. 産業看護の歴史と展望
II. 対象の理解	2. 産業社会の今日的課題 3. 労働と生活
III. 産業看護をすすめる上での知識	4. 産業看護と疫学 5. 労働環境と健康問題 (物理的, 化学的, 生物学的, 人間工学的, 社会的環境) 6. 人間工学の産業看護への応用 7. 産業看護と安全 8. 労働衛生行政と関連法規 9. 労働災害と補償
IV. 産業看護職の職務	10. 産業看護と総括管理概論 11. 産業看護職のコーディネート機能 12. 職場巡視 13. 労働衛生教育のあり方 14. 産業保健計画の立て方と評価 15. 健康診断と事後措置 16. 健康相談 17. ヘルスプロモーションと産業看護職の役割 18. 職場におけるメンタルヘルス 19. 労働と疾病の調和—作業関連疾患と産業看護— 20. 産業看護職と作業環境管理概論 21. 産業看護職と作業管理概論
V. 産業看護技術	22. 産業看護専門職としての文章の書き方 23. 保健面接技術 24. コミュニケーション技術 25. リスクマネジメント 26. 産業看護と情報管理

表 3 N コースカリキュラム

※講義 4 項目 10 教科目 (1 時間は 45 分とする)

項目・教科目	時間数
VI. 地域看護学	75
1. 地域看護学概論	(30)
(1) 地域看護学の概念, 目的, 機能	5
(2) 公衆衛生看護活動の原則と必要な知識, 技術	10
(3) プライマリーヘルスケアと看護の機能	15
2. 健康教育論	(15)
(1) 健康教育の基本	7
(2) 健康教育の方法	8
3. 保健指導論	(30)
(1) 保健指導の考え方	10
(2) 保健指導の実践方法…組織・集団に対する関わり方	20
VII. 疫学	30
4. 疫学概論	(20)
(1) 疫学の定義と目的	5
(2) 集団における健康現象	5
(3) 疫学調査	10
5. 保健統計	(10)
VIII. 情報管理学	30
6. 情報管理概論	(30)
IX. 保健福祉行政論	15
7. 保健福祉行政総論	(5)
8. 地域保健行政	(10)
講義時間 合計	150

表4 短縮Nコースカリキュラム

※3日間で実施 各教科目90分(2時間)とする

項目	教科目
Ⅵ. 地域看護学	1. 地域看護学の概念, 目的, 機能
	2. 公衆衛生看護活動の原則と必要な知識, 技術
	3. プライマリーヘルスケアと看護の機能
	4. ヘルスプロモーションと看護の機能
	5. 健康教育の理念と方法
	6. 保健指導の考え方と実践方法
	7. コーディネーション技術
Ⅶ. 疫学	8. 疫学の基礎
	9. 集団における健康現象
Ⅷ. 情報管理学	10. 疫学調査の基本
	11. 保健統計の活用
	12. 情報管理の基礎
Ⅸ. 保健福祉行政論	13. 情報処理とその活用
	14. 今日の保健福祉行政の目指すもの

課題レポート (4題)

1. 公衆衛生看護活動と産業看護活動に共通する機能
2. 我が国のヘルスケアシステムと看護活動
3. 公衆衛生活動における疫学的手法について
4. 我が国における保健福祉行政制度について

(資料2)

産業看護職継続教育システム  
—産業看護実力アップコースカリキュラム—

日本産業衛生学会産業看護部会  
2007年4月1日

実力アップコース運用について

1. 実力アップコースの対象は, 基礎コース修了者, 並びにこれに準ずる者とする。
2. 実施方法にあたっては, 講義・産業看護研究とし, 集中並びに積み上げ方式を取る。
3. 基礎コース修了者のうち『産業看護師』登録手続をした者に対して『産業看護職継続教育手帳』を発行し, 履修結果については『産業看護職継続教育手帳』に受講項目・教科目の時間数を記録する。『産業看護師』登録手続なしに, 実力アップコースの積み上げ方式での受講は, 履修時間としては認められない。
4. 実力アップコースに示されている教科目 (I~V項目220時間ならびに産業看護研究30時間)を履修した者は, 実力アップコースを修了したものとみなす。
5. 産業看護研究については学会誌発表相当のものとする。該当者は申請書と論文を提出する。

産業看護職継続教育 (実力アップ) カリキュラム  
講義5項目26教科目 (45分を1時間とみなすことができる)

項目	コース別履修時間		
	基礎	実力アップ	全時間
<b>I. 産業看護論</b>	2	13	15
1 産業看護概論-1			
産業保健活動の理念と健康管理体制	(2)	(8)	(10)
2 産業看護概論-2			
わが国における労働衛生の実態		(5)	(5)
<b>II. 対象の理解</b>	4	26	30
1 産業社会	(2)	(4)	(6)
2 産業組織		(6)	(6)
3 産業経済		(5)	(5)
4 労働		(6)	(6)
5 労働者	(2)	(5)	(7)
<b>III. 産業看護をすすめる上での知識</b>	12	35	47
1 職業・作業関連健康影響	(6)	(12)	(18)
2 人間工学		(7)	(7)
3 労働生理学		(6)	(6)
4 労働衛生工学		(2)	(2)
5 安全工学		(2)	(2)
6 リスクマネジメント	(2)	(2)	(4)
7 労働衛生関連法規	(4)	(4)	(8)
<b>IV. 産業看護職の職務・役割</b>	24	66	90
1 総括管理	(8)	(12)	(20)
2 労働衛生教育	(2)	(12)	(14)
3 健康管理	(10)	(10)	(20)
4 作業環境管理	(2)	(16)	(18)
5 作業管理	(2)	(16)	(18)
<b>V. 産業看護技術</b>	8	80	88
1 産業看護専門職としての文章の書き方	(2)	(13)	(15)
2 ケースワーク		(15)	(15)
3 グループワーク		(15)	(15)
4 コミュニケーション技術	(2)	(8)	(10)
5 保健面接技術	(2)	(13)	(15)
6 コーディネーション技術		(8)	(8)
7 情報管理技術	(2)	(8)	(10)
<b>講義時間 合計</b>	<b>50</b>	<b>220</b>	<b>270</b>
<b>産業看護研究</b>	<b>30</b>	<b>30</b>	<b>60</b>

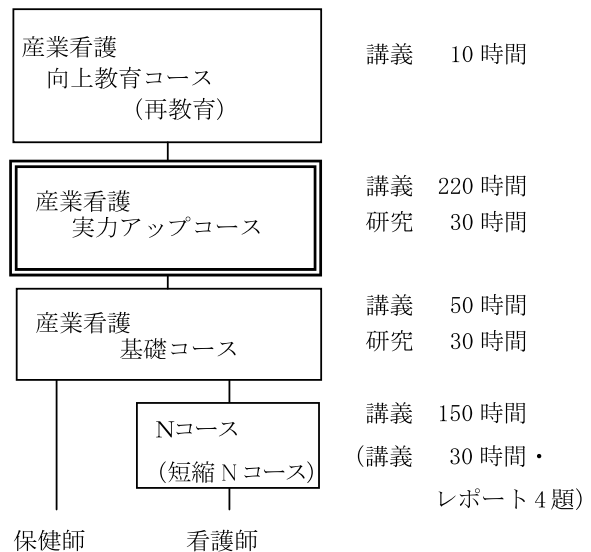


図1 産業看護職継続教育システムの実力アップコースを示す

表1 産業看護実力アップコースのカリキュラム

実力アップコースカリキュラムの履修時間を示した。( ) 内の数字は項目・教科目別の履修すべき時間数である。

\*この他に産業看護研究 30 時間

項目	教科目	(時間数)
<b>I 産業看護概論</b>		13
1 産業看護概論-1		8
産業保健活動の理念と健康管理体制	(1) 産業保健・産業看護の歴史と展望	(1)
	(2) 産業保健・産業看護を推進するための体制	(2)
	(3) 諸外国における産業保健と産業看護	(1)
	(4) 産業看護の専門性	(2)
	(5) 産業保健・産業看護における倫理	(2)
2 産業看護概論-2		5
わが国における労働衛生の実態	(1) 統計からみた労働衛生の現状	(2)
	(2) 健康調査結果からみた労働者の健康状態	(2)
	(3) 産業看護活動の実態	(1)
<b>II 対象の理解</b>		26
1 産業社会		4
	(1) 企業体の特徴と社会的責任	(2)
	(2) 産業構造と職業構造	(1)
	(3) 労働人口構成の多様化とその対応	(1)
2 産業組織		6
	(1) 産業組織の仕組と機能	(2)
	(2) 労使関係の動向	(2)
	(3) 産業組織における事業者と労働者の責任	(2)
3 産業経済		5
	(1) 産業経済の展望と今日の問題	(3)
	(2) 雇用制度・形態	(2)
4 労働		6
	(1) 各ライフステージからみた労働	(2)
	(2) 労働時間	(2)
	(3) 労働形態の変化	(2)
5 労働者		5
	(1) 労働観の変遷	(1)
	(2) 労働者のライフステージ別課題	(1)
	(3) 労働生活の質 (QWL)	(2)
	(4) 労働者と地域社会	(1)
<b>III 産業看護をすすめる上での知識</b>		35
1 職業・作業関連健康影響		12
	(1) じん肺とその予防対策	(1)
	(2) 化学的因子による健康障害とその予防対策	(2)
	(3) 生物的因子による健康障害とその予防対策	(1)
	(4) 物理的因子による健康障害とその予防対策	(2)
	(5) 腰痛とその予防対策	(2)
	(6) VDT 作業による健康障害とその予防対策	(2)
	(7) 作業関連疾患とその予防対策	(2)
2 人間工学		7
	(1) 産業看護に必要な人間工学の知識	(2)
	(2) ME 化と人間工学	(1)
	(3) 仕事の側からの人への調和と人間工学	(1)
	(4) 人間工学からみた働きやすさ・働きにくさ	(1)
	(5) 人間工学からみた作業編成	(1)
	(6) 人間工学からみた作業改善のすすめ方	(1)
3 労働生理学		6
	(1) 産業看護に必要な労働生理の知識	(2)
	(2) 労働負担と疲労	(2)
	(3) 疲労の予防対策	(2)
4 労働衛生工学		2
	(1) 産業看護に必要な労働衛生工学の知識	(2)
5 安全工学		2
	(1) 安全工学	(2)

6 リスクマネジメント		2
	(1) 健康リスクマネジメント	(1)
	(2) 安全リスクマネジメント	(1)
7 労働衛生関連法規		4
	(1) 労働衛生行政の動向	(4)
* III-2-(1), (3) については、基礎コースで各1時間履修済		
<b>IV 産業看護職の職務・役割</b>		66
1 総括管理		12
	(1) 衛生管理業務の企画・立案と産業看護職の役割	(1)
	(2) 衛生管理体制の整備と産業看護の役割	(1)
	(3) 各種規定の整備・運用と産業看護職の役割	(1)
	(4) 衛生管理の総合評価と産業看護職の役割	(2)
	(5) 安全管理部門との連携と産業看護職の役割	(1)
	(6) 予算管理と産業看護職の役割	(1)
	(7) 衛生管理施策についての広報活動と産業看護職の役割	(2)
	(8) 労働安全衛生マネジメントシステムと産業看護職の役割	(3)
2 労働衛生教育		12
	(1) 労働衛生に関する従業員の知識、意識、行動の把握法	(2)
	(2) 労働衛生教育計画策定のあり方	(3)
	(3) 経営者、管理者への情報提供のあり方	(2)
	(4) 労働衛生教育の教材	(2)
	(5) 労働衛生教育の評価	(3)
3 健康管理		10
	(1) 最近の産業保健の展開と産業看護職の役割	(3)
	(2) ヘルスプロモーションと産業看護職の役割	(2)
	(3) 効果的な健康診断の事後措置のあり方	(2)
	(4) メンタルヘルスと産業看護職の役割	(2)
	(5) 地域保健との連携	(1)
4 作業環境管理		16
	(1) 快適な職場環境の形成	(3)
	(2) 作業環境の評価に基づく作業環境管理	(1)
	(3) 職場における化学物質の管理体制	(2)
	(4) 化学的・生物的・物理的因子の管理と産業看護職の役割	(2)
	(5) 一般衛生対策と産業看護職の役割	(2)
	(6) 作業環境測定と産業看護職の役割	(2)
	(7) 作業環境改善と産業看護職の役割	(2)
	(8) 喫煙環境対策と産業看護職の役割	(2)
5 作業管理		16
	(1) 作業分析の評価と産業看護職の役割	(2)
	(2) 作業標準の評価と産業看護職の役割	(2)
	(3) 疲労・ストレスに関する調査方法	(2)
	(4) 適正な作業条件の設定と産業看護職の役割	(1)
	(5) 作業方法の改善と産業看護職の役割	(2)
	(6) 職場における腰痛予防対策と産業看護職の役割	(2)
	(7) VDT 作業における作業管理と産業看護職の役割	(2)
	(8) 労働衛生保護具の選定と産業看護職の役割	(1)
	(9) リスク低減措置と産業看護職の役割	(2)
<b>V 産業看護技術</b>		80
1 産業看護専門職としての文章の書き方		13
	(1) 専門職としての文章の書き方	(4)
	(2) 文献検索・文献講読	(3)
	(3) 研究論文の基本的考え方と書き方	(6)
2 ケースワーク		15
	(1) ケースワークの基本理念・諸原則	(4)
	(2) ケースワークの処置・対応	(4)
	(3) クライアントの理解	(5)
	(4) ケース記録	(2)

3	グループワーク	15
	(1) 集団の構造と機能	(2)
	(2) 組織活動とその原理	(2)
	(3) グループダイナミックス	(2)
	(4) リーダーシップとメンバーシップ	(2)
	(5) グループワーク演習	(7)
4	コミュニケーション技術	8
	(1) コミュニケーションの基本概念・構造	(4)
	(2) 言語的, 非言語的コミュニケーションのあり方	(2)
	(3) 援助的コミュニケーションのあり方	(2)
5	保健面接技術	13
	(1) 面接法の基本	(2)
	(2) 詳しい情報を追加収集する方法	(2)
	(3) 保健面接のすすめ方	(2)
	(4) 保健面接の実際 (ロールプレイ)	(7)
6	コーディネーション技術	8
	(1) コーディネーションのために有用な資源と利用方法	(1)
	(2) ニーズアセスメント	(2)
	(3) コーディネーションの展開過程	(2)
	(4) チームアプローチとコーディネート機能	(1)
	(5) コーディネーションの評価	(2)
7	情報管理技術	8
	(1) 情報処理システムの構造	(1)
	(2) 保健医療情報の特徴と種類	(2)
	(3) 情報の処理	(2)
	(4) 業務分析とシステム構築	(1)
	(5) 情報管理とプライバシー問題	(2)

実力アップコースカリキュラム実施にあたっては, 日本産業衛生学会産業看護部会の指示によって取り扱うこととする。

## 理事長候補者および監事候補者の選挙結果のお知らせ

中央選挙管理委員会  
委員長 大久保靖司

(社)日本産業衛生学会定款および役員選出規程に則る理事長候補者および監事候補者の選挙の公示を行いましたところ、立候補受付期間中に理事長候補者に1名、監事候補者に3名の立候補がありました。

中央選挙管理委員会において、いずれの立候補者の立候補届出の書類等について疑義のないことを確認し、理事長候補者については立候補者数が定員数と同数であったため中央選挙管理委員会は無投票による当選と認めました。また監事候補者については監事候補者選挙を行った結果、下記の通り監事候補者2名(定数2名)が選出されました。

以上の結果を役員選出規程に則り理事長に平成21年3月9日付けで報告いたしました。

このお知らせは平成21年3月16日付けにて学会ホームページにて公開されています。

### 1. 理事長候補者(定数1名)

大前和幸 慶応大学医学部衛生学公衆衛生学

### 2. 監事候補者(定数2名)

圓藤吟史 大阪市立大学大学院医学研究科産業医学分野

中明賢二 麻布大学

## 理事候補者選挙結果のお知らせ

中央選挙管理委員会  
委員長 大久保靖司

(社)日本産業衛生学会定款および役員選出規程に則る理事候補者選挙が各地方会にて行われた結果、下記の通り理事候補者が選出されました。

以上の結果を役員選出規程に則り理事長に平成21年1月8日付けで報告いたしました。

このお知らせは平成21年3月16日付けにて学会ホームページにて公開されています。

### 理事候補者

北海道	岸 玲子	清田典宏		
東北	広瀬俊雄	本橋 豊		
関東	相澤好治	五十嵐千代	大久保靖司	大前和幸
	加地正伸	加藤 元	川上憲人	諏訪園靖
	角田 透	柳澤裕之		
北陸甲信越	日下幸則	高橋英尚		
東海	小林章雄	斉藤政彦	吉田 勉	
近畿	大脇多美代	岡田 章(新大阪健診クリニック)		
	廣部一彦	山田誠二		
中国	萩野景規	原田規章		
四国	實成文彦	昇淳一郎		
九州	住徳松子	東 敏昭	堀江正知	



## 平成 20 年度実施 地方会長および代議員選挙結果

中央選挙管理委員会  
委員長 大久保靖司

## 地方会長

(北海道) 岸 玲子 (東北) 本橋 豊 (関東) 角田 透 (北陸甲信越) 日下幸則 (東海) 小林章雄 (近畿) 車谷典男  
(中国) 原田規章 (四国) 實成文彦 (九州) 川本俊弘

## (北海道)

相澤和幸 川崎能道 河原田まり子 岸 玲子 清田典宏 小林麻美 佐藤修二 佐藤広和  
武田秀勝 鳴海志織 三宅浩次 宮崎由美子 森 満 横尾由紀子 吉岡英治 吉田順子  
吉田貴彦 (以上 17 名)

## (東北)

井上瑞江 色川俊也 岩田豊人 小野田敏行 加藤清司 工藤康嗣 黒川修行 黒田真理子  
坂田清美 佐々木大輔 佐藤 洋 菅原 保 嶽石美和子 只埜則恵 立身政信 角田文男  
仲井邦彦 中屋重直 広瀬俊雄 福島哲仁 三田禮造 村田勝敬 茂木 隆 本橋 豊  
山内 徹 吉田 稔 (以上 26 名)

## (関東)

相澤 好治 秋澤幸子 秋山義之 浅沼一成 飛鳥田一朗 安達修一 安達元明 網中雅仁  
荒井二三夫 荒記俊一 荒武 優 有藤平八郎 安藤秀樹 安藤雄一 五十嵐千代 池田知純  
池畑政輝 石井賢治 石田裕美 石原輝英 一木ひとみ 市橋 透 出光恵美子 伊藤克朗  
稲垣弘文 稲葉岳也 井上和男 井上まり子 今井常彦 今宮俊一郎 上西一弘 鶴澤龍一  
内田かおり 内山寛子 畝村さゆみ 宇野 司 穎川一忠 圓藤陽子 大石充宏 大川康彦  
大久保靖司 大越裕文 太田久吉 大塚俊昭 大橋 力 大前和幸 大山典明 大脇和浩  
小笠原牧子 小川利隆 小川洋子 起 由美 小此木英男 尾崎哲則 小田切優子 落合孝則  
戒田敏之 柿沼 歩 笠井みさ子 加地正伸 梶原隆芳 加藤 元 加藤繁夫 加藤憲忠  
門倉真人 加部 勇 鎌田郁子 亀田千賀子 香山不二雄 川上憲人 川田智之 菅野章子  
木内夏生 菊池 悟 菊地 央 橋川志延 城戸尚治 木船耕太郎 久保恵子 栗山一彦  
栗山典子 小林信滋 甲田茂樹 河野啓子 古賀才博 小和和孝 後藤純雄 坂田晃一  
小林悦子 小林 浩 小林廉毅 五味秀穂 佐藤幹也 佐藤裕司 酒井一博 榮 兼作 坂田晃一  
阪本要一 櫻井治彦 佐藤左千子 佐藤敏彦 佐藤幹也 佐藤裕司 清水英佑 佐野麻里子 品田佳世子  
柴岡三智 柴崎智美 島津明人 島田敏樹 島田 直樹 清水英佑 清水靖仁 清水能一  
下光輝一 須賀万智 杉山あけみ 鈴木公典 鈴木英孝 鈴木勇司 角南祐子 諏訪園靖  
関口千春 平 貢秀 高尾淑子 高木一郎 高田礼子 高梨一紀 高橋由紀子 瀧本みお  
田久保尚子 竹内武昭 竹内 正 武田桂子 竹田 透 武田信彬 武田光史 武林 亨  
武見ゆかり 立道昌幸 田中克俊 田中希実子 田中久巳彦 田中 茂 田中美樹 田中三代  
田中由紀夫 谷 洋子 谷山佳津子 田村展一 千代田亘弘 津久井一平 角田 透 角田正史  
寺田勇人 照屋浩司 徳田知子 豊島裕子 土地実礼 利根川豊子 土肥誠太郎 富田真佐子  
富山吉光 豊川智之 中明賢二 中尾誠利 中尾睦宏 中川茂昭 中野昭司 中野愛子  
長野嘉介 中野幸子 南雲篤子 名越温古 名古屋俊士 西植植規秀 西宮常代 西山寿子  
沼田美和子 能川浩二 能川和浩 能勢俊一 野田一雄 野寺 誠 野原誠一郎 野村恭子  
畑 仁 畑中純子 八反丸善文 浜口伝博 濱田篤郎 林 恵子 林 弘子 野美貴子  
林 洋子 林ルミ子 原谷隆史 原野 悟 東川麻子 東川麻子 土方康義 平田 衛  
深澤健二 深沢規夫 福島葉月 福田笑子 福本正勝 藤井恵子 藤田郁代 藤田雄三  
藤浪 明 測上博司 船渡川伊久子 古河 泰 古谷たき子 星原芳雄 細谷龍男 堀口 誠  
堀越誓子 前田俊彦 牧 信子 真島香代子 増澤清美 榊元 武 松井知子 松井春彦  
松岡雅人 松木一美 松崎一葉 松田かおり 松田敏裕 松平 透 松永直樹 馬目佳信  
水梨律子 三村 明 三村将文 宮川 寛 三宅健夫 宮越雄一 宮崎 寛 深山京子  
宮本俊明 三好裕司 三輪祐一 武藤孝司 村上朋絵 村田 克 村仲良子 村松 淳  
本吉光隆 森崎美奈子 森田美保子 森本英樹 門澤浩二 柳下澄江 谷下田利枝 安田信彦  
柳澤裕之 矢野栄二 山内 博 山崎 明 山田憲一 山田裕史 山田優子 山瀧 一  
山中 理 山野優子 山内直人 湯口恭利 湯原幹男 横田和彦 吉岡早戸 吉岡玲奈  
吉住次恵 吉田勝美 李 卿 鷺崎 誠 和田耕治 和田高士 渡部真弓 渡邊美幸

## (以上 280 名)

## (北陸甲信越)

青島恵子 赤羽正子 飯島純夫 稻寺秀邦 井上勝六 梅村朋弘 遠藤和男 大滝秀穂  
鏡森定信 加須屋実 金子 誉 亀田真紀 城戸照彦 日下幸則 源氏富貴子 興梠建郎

笹本 清 中川秀昭 柳本政浩 (東海)	佐藤章夫 中平浩人 山本正治	佐藤一博 長沼 毅 渡辺久美子	佐藤知子 野口美代子 (以上 35 名)	高橋英尚 野見山哲生	田中恵子 松原六郎	田畑正司 丸山道男	手塚司朗 森河裕子
青山京子 岩田全充 加藤隆康 小西泰元 杉本日出子 土屋博信 野木孝真 山田琢之 (以上 63 名) (近畿)	赤松康弘 内野文吾 金山敏治 小林章雄 鈴木初子 久永直見 横山和仁	秋山 泉 梅津美香 上島通浩 斉藤政彦 住吉健一 寺澤哲郎 福井 明 吉田 勉	足立留美子 浦上年彦 川出鈴代 酒井 潔 高崎正子 長岡 芳 牧野茂徳 和田晴美	石川浩二 榎原 毅 北村文彦 酒井康子 竹内康浩 中元健吾 宮尾 克 和田文明	市原 学 大久保浩司 倉田千弘 榊原久孝 城 憲秀 那須民江 武藤繁貴 渡邊美寿津	市丸麻衣子 尾辻典子 栗田秀樹 坂元富美夫 巽あさみ 新島邦行 村崎元五 綿貫ルミ子	井奈波良一 小野雄一郎 黒川淳一 柴田英治 谷脇弘茂 西谷直子 村田真理子
相場まり子 伊藤勝啓 江島桐子 岡田 潮 岸田 隆 車谷典男 鮫島真理子 寺澤 啓 夏目 誠 原田昌子 藤岡滋典 松岡陽太郎 森岡郁晴 吉田廣子 (中国)	青木美恵 伊藤泰司 圓藤吟史 垣本洋希 北村栄作 小泉昭夫 杉谷真弓 竹林真智子 照屋直美 鍋谷 登 日高秀樹 藤木幸雄 松澤佑次 森口次郎 吉田途男	荒木田美香子 伊藤正人 大橋 誠 鍵谷俊文 木村 隆 河野公一 竹村 芳 徳永力雄 西内恭子 平田真以子 伏見尚子 松田裕子 森本兼囊 (以上 114 名)	有西幸子 井上幸紀 大森成二 梶山泰男 木村 稜 後藤浩一 鈴木純子 辰巳佳次 富永なおみ 西尾久英 廣島義勉 藤吉奈央子 松本泉美 八木田あけみ	井口 弘 今井圓裕 大脇多美代 加藤俊夫 清田郁子 小林伸行 園山 明 田内 健一 長澤孝子 萩原 聡 広田昌利 前久保邦昭 宮上浩史 山田誠二	石山珠江 上坂聖美 岡田 章(丸紅) 竈門敬二 清原達也 酒井英雄 埴田和史 田内 潤 中嶋千晶 長谷川恭一 廣部一彦 前田宏明 宮下和久 山田義夫	一森三千男 上田美代子 岡田 章(日立) 河合俊夫 久保田昌詞 佐藤 洋 高橋良夫 中田一洋 服部公彦 福西みのり 益江 毅 三好佳子 山中佳子	井手陽子 植本寿満枝 岡田邦夫 川畑真理 久保田 稔 佐野 敦 瀧本忠司 堤 梨恵 中西一郎 原 充紀 藤井八州子 松井治子 茂原 治 横川朋子
石川 紘 笠置恵子 瀧川智子 能勢隆之 鎗田圭一郎 (四国)	伊藤武彦 岸本拓治 田口豊郁 原田規章 (以上 33 名)	井上正岩 岸本卓巳 立石 肇 福岡悦子	宇土 博 小島真二 坪田信孝 舟橋 敦	及川和郎 小林敏生 道家庚一 芳原達也	荻野景規 篠藤ひとみ 中川一廣 細本清子	奥田昌之 塩飽邦憲 奈良井理恵 松山須美子	落合のり子 関 明彦 西山直子 山本秀樹
有澤孝吉 谷川 武 (九州)	大原啓志 昇淳一郎	小松 律 藤井智恵子	近藤亨子 脇谷小夜子	實成文彦 渡部和子	菅沼成文 (以上 13 名)	須那 滋	多田敏子
青木一雄 市場正良 小山一郎 佐土原浩子 田中雅人 西 雅子 廣 尚典 三角順一 (以上 64 名)	青柳 潔 井手玲子 鹿毛美香 柴戸美奈 田原由夏 西田和子 福光ミチ子 明星敏彦	嵐谷奎一 弥富美奈子 加藤貴彦 住徳松子 筒井保博 八谷百合子 藤代一也 森 晃爾	伊規須英輝 上田 厚 河村 裕 高橋 謙 堤 明純 原 邦夫 二塚 信 森本泰夫	石井敦子 大神 明 川本俊弘 滝川恵子 中尾由美 原 善子 寶珠山務 八幡勝也	石竹達也 大久保利晃 櫻田尚樹 竹内 亨 永田頌史 東 敏昭 保利 一 山下珠美	石原逸子 大森久光 神代雅晴 田中勇武 中谷淳子 日野義之 堀江正知 山城愛子	泉 博之 織田 進 黒田嘉紀 田中節子 中之蘭美紀子 平山良克 松田晋哉 大和 浩